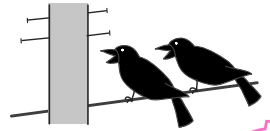


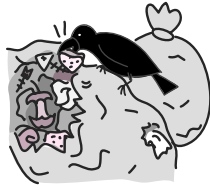
カラスとのかみあい方

毎年この季節になると、「カラスに襲われる」など、カラスに関する苦情が多数寄せられます。カラスの習性からつきあい方を探ってみましょう。

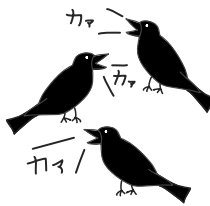


カラスの主な習性

○ゴミを食い散らかす
カラスがゴミをあさる様子を観察していると、赤っぽいもの（肉）や濡れたもの（魚の肉）など、栄養価がある食べ物がみつかる確率の高い目印を狙っていることがわかります。



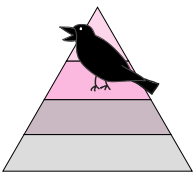
○鳴き声がうるさい
カラスは、お互いの存在を確かめたり自分の存在を誇示したりするほか、幼鳥が親鳥に食べ物をねだったりする際に鳴き声を発します。特に、この季節は一段とにぎやかになります。



○攻撃してくる
カラスは鳥類の中でも子育て熱心！卵を産む5月からひなが巣立つ6月は特に神経質になっています。巣やひなに近づく人間はカラスにとって危険な敵なのです。



○カラスは掃除屋
カラスは、生態系の中では動物の死体を食べる片づけ、自然の中の掃除屋の役割を担っています。また、カラスのふんはバクテリアなどによって分解され、植物の栄養となります。



カラス被害の相談先

公園の場合
都市計画課 内線2103
☎048-463-0375(直通)
ごみ対策
クリーンセンター
☎048-456-1593
その他に関すること
環境保全課 内線2262
☎048-463-1504(直通)

カラスと共生するには

人間が出す生ゴミや残飯を食べ、公園の樹木やマンションの緑地など安全に営巣する場所があり、天敵となる猛きん類がないわたしたちのまちは、カラスにとって好条件で、カラスが増える大きな要因となっています。それらの多くは人によって与えられたものであり、カラスの数を減らしてわたしたちと共生していくためには、まずはひとりひとりの小さな協力が必要です。

野生動物に餌をあげないで！

生態系のバランスを崩し、鳴き声やふんなど苦情の原因にもなります。カラス、はたぬき、野良猫など、野生動物に餌付けするのはやめましょう。

被害を未然に防ぐ対策は？

脅しの効果を狙った防除器具はカラスが慣れてしまったため、速効性はなくとも、長期的にみて確実にカラスの数を減らすには次のような対策が効果的です。

餌を与えない

- ・庭やベランダに置くペットの餌を取られないように注意する。
- ・餌付けをしない（カラスを対象にしない餌やりでも、それをカラスが横取りし、同じ効果を与えることになる）。

巣材を与えない

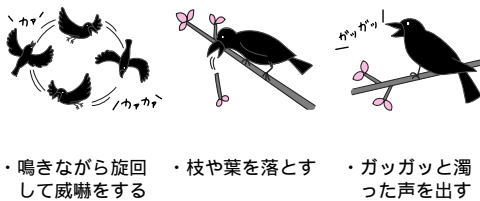
- ・針金ハンガーを出しっぱなしにしない（鉄塔や電柱に巣を作ると停電などの被害も起こる）。

巣を作りにくくする

- ・庭木の枝をせんでいして巣を作りにくくし、下からのぞけるようにする（カラスは人目につかない所に巣を作る）。
- ・巣を作られたら、卵を産む前に巣落しするのも効果的です。ただし、巣の中に卵やひながいる場合には、有害鳥獣捕獲許可（ ）が必要です。
- ・有害鳥獣捕獲許可…環境保全課で申請を受け付けています。申請後、審査のうえ許可をします。無許可で卵、ひなを捕獲すると罰則の対象となります。

カラスの危険な行動

小 ≡ 危険度 ≡ 大



- ・鳴きながら巡回して威嚇をする
- ・枝や葉を落とす
- ・ガッガッと濁った声を出す

無用な刺激をしない

・カラスは、卵やひなを守るために激しく威嚇・攻撃することがあるので、不用意に刺激しない。

ごみの出し方を工夫する

- ・収集日当日の午前8時30分までにごみを出す。
- ・クリーンネットですっかり覆う。
- ・生ゴミが外から見えないように、袋の奥に入れる、新聞紙でくるむなど工夫する。